

## 日本からドイツ便り～ドイツでお買い物

すっかり秋になってしまいました。今年のドイツは一週間ごとに寒かったり暑かったりと変な気候だそうです。10月の最終日曜日には夏時間が終わり、冬時間。現在の日本とドイツとの時差は-8時間。長くて暗くて寒い冬の始まりです！

その反面、10月中旬にもなると、夏の間テラス席に代わって街の中で見かけるようになるものがあります。それは「焼栗と焼芋(といってジャガイモですが)」のスタンド。(日本の感覚では焼き芋屋さんでしょうか。)11月後半になると各街ではクリスマス市が始まり、焼栗に加えて、グリューワインなど温かい飲み物の屋台が登場します。

今日はドイツでお買物がテーマです。以前やけに力が入った「スーパーマーケットの巻」というのがありますが、今回はごく一般的な「お買い物」についてです。

ドイツのお店の開店・閉店時間は「閉店法」という法律で決められていて、平日が08:00 - 20:00、土曜日でも08:00 - 20:00と決められています。(オーストリアは土曜日08:00 - 18:00です。)日曜日・祝日は「休まなければならない」ということになっています。(ただし、レストランや、駅やガソリンスタンド、空港などは除外になっています。)この法律も変わりつつあって、おそらく来年ごろには各連邦州で決めていいということになり、この1-2年の間に、ベルリンでドイツ初めての24時間営業のお店(セブンイレブン)ができる予定とのこと。将来のことはさておき、08:00 - 20:00の間の営業時間は店ごとに決めることができるらしく、大きな店やスーパーは08:00 - 20:00、個人商店などは10:00 - 18:00など、いろいろな営業時間が存在します。

あと、飲食店。日本の飲食店は21:00には閉まるというところも多いですが、ドイツの都会地では24:00前に閉まる飲食店のほうが少ないのでは??

さて、本題ですが、皆さんはいいものを買いたいとき、どこに行きますか？  
「百貨店」と答える方が多いかもしれません。でもドイツでは違うんです。

いいものが買える順番は「専門店」→「百貨店」となりますが、この矢印の間には大きな山が3つくらいあるんです。

では専門店。なにが違うのでしょうか??(専門店といってもいわゆる高級な部類の商品を扱うお店を想定しています。)

- ・ 店員さん:基本的に、専門店では、断りもなく商品に触るにはタブーです。でも専門店の店員さんはプロです。このプロ度は高級品になるほど高くなります。「〇 のものを探している」とか「これこれこういうものがほしい」といえば、ぴったりのものを探し出してくれます。日本のブティックのように、全然似合わないものを「お似合いです」とかといって売りつけようとか、太めの方にワンサイズ小さいものを持ってくる、なんてことは絶対ありません。サイズをいわなくてもぴったりのサイズを持ってくる、似合わないものは「あなたにはそれは似合わない」とはっきり言う。その人の好みを瞬時に見抜くなど、驚

かされることがしばしば。もちろん商品知識も豊富です。ただし、あくまでも1対1のサービスなので、他のお客さんに接客中は話しかけても質問しても、完全に無視されます。気長に待ちましょう。急いで買いたい方は百貨店へどうぞ。

- ・ お客さん：基本的に、「○○を買う」とか「これこれこういうものが欲しい」など、明確に「買うぞ」という意思を持って初めて入店します。ドイツで、閉店後もショーウィンドウに明かりがともっていて、(もちろん全て値段が表示されています)それを一生懸命眺めている、という光景がよくあります。そして、「よし買うぞ」ということになってから、お店に行く。これがドイツのお買い物の基本なんです。もちろん「買うぞ」と思っているにもかかわらず実際に手にとって見てみると、案外気に入らなかった。ということもしばしば。それはそれでいいんです。そのときは買わずに帰ることになります。

なので、これもよくある光景ですが、日本人観光客が何気なく挨拶もしないで、専門店に突入。手当たりしだい触ってみて、また挨拶もせず去っていく。これが現地人にとって、いかに不気味なことかお分かりでしょうか？

では「百貨店」は？なんですが、日本で同じようなものがないので説明が難しいのですが、日本のスーパーと百貨店の中間くらい、という位置づけでしょうか。そこそこいろんなものがあるけど、ピンとキリはおいてない、というか…。(もちろん「高級」百貨店もドイツにいくつか存在します。)

旅行に行く楽しみの一つとして「お買い物」を挙げるかたも多いと思います。(私はもっぱら生活必需品ばかり買って帰りますが…)でもお買い物のしかたひとつとっても文化の違いってあるんですね。

さらに日本と違って、ヨーロッパは今でも完全な階層社会です。日本でよく見られるように、時計だけ、バックだけといった「一点豪華主義」というのはまずありません。高級店に来るのは、それなりのクラスの人ということになるので、高級品購入の際には、それなりの外見でお店に行く、というのが意外と重要なんですよ。(これは高級ホテルやレストランに入るときも同じです。)その店の格とか雰囲気壊さないというのが大前提です。さすがに販売や入店を拒否する、なんてことはありませんけどね。

なにやら、「旅の手引き」みたいな内容になってしまいました。一生懸命、どこに「オチ」をつけるか考えていたのですが…。まあたまにはこういうのもいいでしょう。時にはためになる「ドイツ便り」。これで次の旅行から、あなたも買い物の達人！

ちなみにドイツの専門店で「ねぎる」のはやめてくださいね。一度「大阪のおばちゃん」が大阪弁で「まけて」と店員さんに言っている場面に遭遇したことがあります。居合わせた私は冷や汗もんでしたが、でもなぜか通じたらしく、店員さんは一生懸命「no discount!」とっておりました。迫力だけで通じるもんなんですねえ。感心。

それではまた次回…。